

「コ・ワークひめじ」が社会福祉協議会の冊子「ひょうごの福祉9月号」に掲載されました！

生きがいをづくりをミッションに掲げ、NPOの活動支援を行っている特定非営利活動法人コムサロン21が、「コ・ワークひめじ」を運営し、ニートやひきこもりの状態にある若者に対する支援を行っているよ。どのような取り組みが行われているのか紹介するね。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

出口の見えない 若者への支援

コムサロン21では以前より、「ひめじ若者サポートステーション」を厚労省より受託し、「働く自信がない、何をしたいのかわからない」といった悩みを抱える若者に対し、カウンセリングやセミナーを通じて自立支援を行ってきた。そのうち3分の1の若者は就職や進学へと進路を決めていくが、なお多くの若者は出口の見当たらない状態にあった。そんな彼らが具体的に社会参加できるように、コ・ワークひめじは立ち上げられた。

社会性と自信を取り戻す

登録した若者は、まずは自らのペースでコ・ワークひめじへ通うことからスタートする。「朝起きて家を出る」という生活リズムをつくり、マナー講座・履歴書添削といった種々のプログラムに取り組む。さらに、企業から受注した商品の袋詰めや清掃、農作業などの仕事も経験する。

当初、彼らは同じ空間の中で過

ニートや引きこもりの若者を社会参加につなげる

～「コ・ワークひめじ」が取り組む中間的就労支援～

すことを苦痛に感じるが、お互いを助け合うという経験などを通して、徐々に人間関係が作られていく。安心して通える場を提供することで社会性を取り戻していくのだ。

また、「どうせ自分にはできない」と否定的な思いを持つ方も多いが、「不安な要素について一つずつ対処方法を考え、コミュニケーションなど丁寧な事前準備を行い、『自分ができる』というイメージを持ってもらうことが大切」とコーディネーターの谷口さんは話す。就労体験で実際に賃金を手にし、仕事ができたと自信を得た彼らは、その後社会へとはばたいていくことになる。

ネットワークづくりの必要性

事業所を開所した平成24年度は



社会参加を目指して共同作業に取り組む

51人の登録があり延べ43人が進路を決めているが、就労ばかりではなく、知的障害があることが分かった障害者の就労継続支援事業所などの福祉サービスの利用に至った方もいる。今後は、就労支援機関のみならず福祉・医療機関、学校、行政等との連携を密にし、ケースに応じた適切な支援を進めていく必要がある。

取材を終えて

生活困窮者に対する支援策の一環として直ちに一般就労を目指すことが困難な人に対して、社会的な自立に向けたサポートを行う“中間的就労”の必要性が謳われています。コ・ワークひめじでは若者をターゲットにした取り組みでしたが、これらのノウハウが多くの人を支援する仕組み作りに活かされるよう期待したいと思います。

若年無業者試行的就労支援センター 「コ・ワークひめじ」
姫路市二階町79 レウルーラ姫路二階町3階
☎079-282-6116

<http://www.cowork-himeji.jp/>